

### 第3 点検・評価に関する有識者からの意見

以上の点検・評価について、二名の有識者から以下のご意見を伺いました。

玉川大学教職大学院教授 小松 郁夫

#### 1. 総論

三鷹市教育委員会は、学校教育分野において、「いきいきと子どもが輝く教育・子育て支援のまちづくり」、生涯学習分野において、「創造性と豊かさをひろげる生涯学習・文化のまちづくり」を目標としており、東京都内はもちろん、全国的にも先進的な自治体として、多様な政策を積極的に展開しており、その事業管理と執行は適正かつ市民の要望などを幅広く吸収して実施されているものと考えられる。

特に、学校教育分野では、「豊かな心をもち、心身ともに健康で、たくましく生きる『人間力』と『社会力』のある児童・生徒の育成」を指導目標に、「三鷹市教育ビジョン」（平成18年度）及び「三鷹市教育支援プラン」（平成19年度）に基づき、小学校と中学校の一貫教育を計画的に準備し、実施をしてきている。

小中一貫教育は、学校教育法での義務教育規定を受け、全国的にも徐々に実践が開始されているが、三鷹市は其中でももっとも先進的かつ精力的に新しい教育の開発に取り組んでいる自治体である。また、市内の各学校でも、それぞれの実情に即して、積極的に取り組んでおり、全国各地からその実践と成果が注目されている。教育委員会の支援の下、各学校と地域社会が主体的に地域の子どもたちの望ましい成長に向けて、着実に事業を展開している。特に、コミュニティ・スクールを基盤として、義務教育9年間の一貫したカリキュラムの開発は、よりいっそう質的に高い学校教育を保証するものとして、大変高く評価できる。しかもゼロ歳から15歳まで安心して子どもを育てられる環境づくりを推進しており、就学前からの優れた教育条件整備として、大変注目される。

生涯学習分野では、市民がひとしく芸術、文化、スポーツに親しみ、生涯学習活動を多様にかつ協働しながら楽しむように事業計画が用意されている。特に、ICTを活用した条件整備は、市民の活動がより効果的に推進されるように計画・実施されており、評価できる。

#### 2. 教育委員会の活動

三鷹市教育委員会は、法制度の下での活動を適正に執行しており、市民からの信頼も高いものと認識している。審議内容と活動状況は、基本方針や事業計画に基づき、積極的に遂行されている。特に、学校などの現場との交流に積極的に取り組んでおり、今後もその方針で活動を推進すべきであると考え。教育委員と事務局の関係も良好で、事務局スタッフは、増大しつつある業務を多忙な中にも着実に執行しており、市民への説明責任を適正に果たしている。

### 3. 主要事務事業

以下、主要事務事業の中から、特に点検・評価した内容について触れることとする。

#### (1) 学校の耐震補強工事

安全な学校環境の整備は、学校の施設管理者としての最大の責務の一つと考える。三鷹市でもそうした基本方針の下、積極的に耐震補強工事を推進しているものと確認できるが、残念ながら、入札不調などが原因で、平成20年度では目標値を若干ながら下回ってしまった。国の政策においても、最重要課題として取り組んでいる事業の一つでもあり、引き続き、精力的に事業展開されることを期待する。特に、入札不調の原因と改善策を早急に検討し、次年度以降は、目標値を上回る成果を上げるよう取り組まれない。

また、第三小学校校舎と第五中学校体育館は、建替工事を実施することとしたが、建替計画の検討にあたっては、学校関係者、地域住民の意見を十分に把握し、設計等への反映を図ることが必要である。

学校施設は、児童生徒の安全で快適な教育環境の提供はもとより、地域住民にとっても、主要な地域の防災拠点である。建替えや耐震補強工事の実施にあたっては、東台小学校の校舎建替えのように、適正な工程管理を行いながらできる限り工期の短縮を図り、一日も早く、安心して児童生徒が学校生活を送れるよう取り組むべきである。

#### (2) 教育ネットワークの利活用の推進

三鷹市は全国的に見ても、先進的に情報社会への行政対応を推進してきた自治体であると認識している。学校教育分野に関しても同様である。教員用パソコンの整備は計画通り配置され、各校で利用が開始された。また、情報の利活用や個人情報保護、セキュリティ機能の拡充、操作研修の充実など関連する事業展開も計画的かつ合理的に推進しており、ほかの自治体などから見ても、模範的な事業展開を進めているものと理解でき、高く評価できる。国や東京都でも、積極的にICTの教育分野への導入に取り組み始めたので、三鷹市でも、今後ますます個人情報の保護とセキュリティの徹底を図りながら、校務事務の業務改善につながるような効果的活用を期待する。

#### (3) 学校における校庭芝生化の整備

環境に配慮し、地球の温暖化対策などの環境負荷の少ない街づくり、学校環境整備は、今後の社会における全世界的な課題でもある。三鷹市においても、環境に配慮し、児童生徒の望ましい教育環境の整備という視点からも、校庭の芝生化は有効な手段の一つと考える。補助金制度の条件から、三鷹市だけでは推進しにくい状況でもあるが、今後は、事業効果の検証と積極的なPRを行い、市民の理解と協力を得る努力を重ねるとともに、より計画的に事業を推進されることを期待する。

#### (4) 教育支援プランの推進と教育支援学級の整備等

特別支援教育に関して、三鷹市では具体的に計画が推進されていることは望ましいと認識できる。特別支援教育は、幼児・児童・生徒一人ひとりの具体的なニーズにあった支援が不可欠であるが、児童・生徒に対する個別の教育支援計画、個別指導計画を作成するためのガイドラインの作成など、きめ細かな対応がなされている。

また、教育支援プランの円滑な推進を図るためには、保護者の理解と協力を得ながら、関係する教職員が協力をし、適宜、対象幼児・児童・生徒の実態を把握し、情報を共有し、適切な対応ができるような体制づくりが重要である。そのためには、教育支援運営委員会の効果的な活用を図るとともに、教育支援学級担任の専門性を活用した、より実践的な研修事業の整備・充実などが必要である。また、学習指導員のさらなる増員、教育支援コーディネーターなどの活用・充実も施策として積極的に推進されることを期待したい。

#### (5) 学校給食の充実と効率的運営

学校給食の充実と安全の確保、それを支える効率的な学校給食の運営は、新しい教育課題の一つである食育の推進にとって、重要な内容である。給食調理業務を委託する学校ごとに設置している「学校給食運営協議会」の活用を図り、児童・生徒、保護者の意見や要望も反映させながら、さらなる学校給食の充実に取り組むことを期待する。

#### (6) 幼稚園・保育園・小学校の連携教育の推進

幼保小の連携教育は、三鷹市が進める教育改革の重点事項であると認識している。小中一貫教育と整合した学園単位での事業連携の強化など、今後は、モデル校の拡大を進めながら保護者等への十分な周知を図り、全市での展開にまで発展・充実することを期待する。

#### (7) 教師の資質・能力の向上

「教育は人なり」です。三鷹ネットワーク大学などの、三鷹市のさまざまな資源を有効活用し、それぞれの教職員が自己と勤務校の実態を踏まえ、より効果的な研修を重ね、児童生徒のさまざまな課題に的確に対応できるよう、一層の施策の充実を期待する。

#### (8) 地域子どもクラブの推進

子どもの健全育成、安全で安心できる子どもの居場所づくりなど、より望ましい地域教育環境の整備という視点で、学校施設の効果的な利活用は、今後ますます重要性を増すものと思われる。

地域子どもクラブの事業について、子どもたちのニーズに合わせた事業を展開するため、地域特性を考慮しながら、地域資源の活用とクラブの運営に必要な人材の確保に積極的に取り組まれることを期待する。また、中学生を対象とした事業の拡充についても期待する。

#### 小松 郁夫氏 略歴

専門は学校経営学、教育行政学、学校論。国立教育政策研究所教育経営研究部長、教育政策・評価研究部長を経て現職。日本教育行政学会及び日本教育経営学会常任理事。三鷹市教育ビジョン策定助言者、足立区教育委員会委員長職務代理、にしみたか学園検証委員会委員などを務める。

日本女子大学

共同教職大学院設置準備室長

島田 京子

三鷹市教育委員会の活動は、行政の目標である『いきいきと子どもが輝く教育・子育て支援のまちづくり、創造性と豊かさをひろげる生涯学習・文化のまちづくり』と、学校教育の目標である『人間力と社会力のある児童・生徒の育成』が、その計画と推進において、相互に連動しあって成果をあげていることが伺われます。

その基盤となる構想が、「コミュニティ・スクール」であり、学校・家庭・地域・企業・大学・NPOなどが連携して課題に対応する各種の「学校運営協議会」の仕組みによって支えられていることが、自己点検・評価からも推察できます。学校運営や教育に関する積極的な情報開示は、社会のニーズに適した教育や運営を推進することを可能にし、また一方では、住民自治の意識の高まりや実践力の向上にも繋がるという好循環を生み出していくものと考えられ、大いに評価できるものであります。

個別の事業に関する評価シートの項目は必要十分な内容と思いますが、できれば「成果面」について、当該事業の成果だけでなく、さらにコミュニティなどへの発展性や影響力について記されていれば、事業活動の意義が深まっていくものと思われま

す。具体的事業に関しては、既に独自に、中間評価がなされており、概ね計画通りに進捗し成果をあげていることが分かります。しかしながら、より質の高い教育環境を整えるための事業活動ではあってもその費用対効果が必ずしも明確になっていない場合もあり、今後、市民に分かりやすく説明していく方法を検討することが、検証・評価にあたって必要と考えます。

「教育ネットワークの利活用の推進」事業は、市立小中学校の教員用パソコン一人一台配置と校務処理ソフトの導入により、校務事務の効率化、小中一貫校化、コミュニティとの連携などをより迅速に広く行うことが可能となり、その波及効果は高いと考えます。また、市立図書館では、全資料75万点のICタグ化など新情報管理システムの導入を進めた結果、利用者8%増や貸し出し予約数90%の増加など利用者サービスの向上に加え、平成21年度に3名の職員定数削減がなされていることは、具体的成果が確認できる好事例となったと思います。本来ICT化の推進は、従来の業務の見直し抜きには推進できない取り組みです。従って、教員用パソコン配置の充実や図書館資料のIC化によるさまざまな成果にみられるとおり、単なる効率化という側面だけでなく、今後も、さまざまな関係者とのコミュニケーションやサービスの向上につながることを期待されます。

「学校給食の充実と効率的運営」に関する取り組みで、平成19年度における調理業務委託の安全・品質面をふくむ履行状況の検証がなされましたが、その結果、さらに調理業務委託を拡げていく計画となっています。この委託によって、経費削減効果も予定

されており、今後も、安全・衛生・品質面の検証を行いつつ、委託による効果が反映されていくよう計画的に進めてほしいと思います。

施設関係の事業において、児童・生徒の安全性の向上は重要な課題です。その目標のために学校施設の耐震を第一義として、運営協議会とも優先順位を検討しつつ、工期短縮に努め、耐震化率をできるだけ早期に引き上げられるよう望みます。

「校庭の芝生化」事業は、環境負荷の削減だけでなく、さらにその測定を行うことによる教育的効果や、地域連携を進める上で有意義であると思います。「小・中一貫教育校の推進」「幼稚園・保育園・小学校の連携教育の推進」事業については、今後、その効果を客観的にはかれる指標の開発を進めることによって、全国のモデルとなるよう期待します。

「教師の資質・能力の向上」事業は、生徒の学力向上のために欠かせないものであるだけでなく、社会的人財の育成や活用にとっても今日的な重要課題です。「三鷹教師力養成講座」の実践コースでは、平成 20 年度の東京都教員採用選考において高い合格率を収めています。さらに、その合格者の 3 分の 1 が三鷹市の教員として任用されていることから、本講座が、三鷹市の求める教員のインターンシップとしての役割を果たしていると認めることができます。また、ネットワーク大学の運営などを通じて、日ごろから積極的に教育現場と関わりをもち、コミュニティへの教育資源の還元を行っていることも評価できます。

こうした点検・評価制度を通して事業の社会的課題が一層明らかになり、さらなる改善へと導くことができれば、市民へのアカウンタビリティを果たすものとなるでしょう。多様なステークホルダーとの連携を基本とする三鷹市教育委員会の活動では、それを可能とすることができると期待しています。

#### **島田 京子氏 略歴**

1967 年日産自動車㈱にデザイナーとして入社し、その後、商品企画、CI プロジェクト、営業企画、広報、社会貢献・CSRなどを担当。2005 年 4 月学校法人日本女子大学に入職し、理事・事務局長を経て 2009 年 7 月より現職。文科省中央教育審議会生涯学習分科会委員、三鷹市社会教育委員などを務める。